

岩手医科大学歯学雑誌投稿規定とその手引き (2014年1月)

1. 本会誌の内容は、総説、原著（研究、症例報告）、予報、短報、トピックス、集会記録、雑報、レクチャーなどとする。原稿は二次出版を除き、これまで他誌に掲載しなかったものに限る。また、同時に他誌に投稿してはならない。二次出版については別に定める。
2. 著者はすべて本学会の会員であること。なお、編集委員会は本会の目的に沿う原稿を会員外にも依頼することができる。
3. 原稿の内容は医の倫理に反しないものであること。動物実験は所属機関の動物実験指針等に準拠し、臨床研究はヘルシンキ宣言の主旨に沿ったものとする。また、所属機関の倫理委員会の承認を得ることが望ましい。
4. 利益相反について

基礎研究ならびに臨床研究では、本文の末尾、参考文献の前に「利益相反について」という見出しを作り、本研究に関連すると思われるすべての利害関係を明記する（企業や営利を目的とする団体からの助成や公的な助成など、すべての形の研究資金が該当）。なお、謝辞がある場合には「謝辞ならびに利益相反について」として、その中に明記する。公表すべき利益相反の事実がない場合には「本研究において、利益相反はありません。」と明記すること。
5. 原稿の採否は査読者の意見を参考にして編集委員会で決定する。委員会は原稿の変更を著者に求めることができる。掲載論文中の著者の見解については委員会は責任を負わない。
6. 原則的に原稿は和文とする。原稿はA4版の白紙にパソコンまたはワープロで作成する。見出しはゴシック12ポイント、その他は明朝体12ポイント、余白は上35mm、下30mm、左右30mmとし、一行を35文字、1ページ16行程度でダブルスペース相当の行間をあけてプリントする。また、英文原稿はA4版の白紙に和文と同様の余白をとり、ダブルスペースでプリントすること。フォントは基本的に12ポイントのCourierまたはPalatino, Timesとする。

パソコンまたはワープロソフトで作成した原稿は、MS-DOSテキストファイル（拡張子が「.txt」となるもの）で保存した電子媒体も同時に提出すること。電子媒体はFD（2HD 1.44MB）またはCD-R、USBメモリとする。

編集時間の節約と事故防止のため、図表も含めて完全なコピーを3部添えること。カラー写真は所見が分かればカラーコピーでもよい。

ワープロ（パソコン）を用いた原稿作成で不明な点は本学会事務室に尋ねること。
7. 論文の構成は、表紙、抄録（英文・和文）、緒言、材料/対象・方法、結果、考察、謝辞、引用文献、図（写真）・表の説明文、図・表の順とする。
8. 原著原稿には目的、方法、結論を明確に示す200語程度の英文抄録とこれに対応した800字以内の和文抄録をつける。全ての論文には3~5項目の英語によるKey wordsを添え、30字以内のランニングタイトルをつけること。
9. 図、表には日本語の説明文をつける。
10. 原稿は13,000字（文献を含む）以内とし（約8印刷ページ）、図表は総計15枚以内とする。
11. 研究は9印刷ページ、症例報告は4印刷ページまでは本学会が費用を負担する。ただし、その中の図表の部分については一部著者負担とする。カラー写真、トレース、特殊な材料や方法を用いた場合は著者が負担する。別刷は50部まで無料（ただし、8印刷ページを越える分は実費）とする。

発行予定ページ（1号100頁以内）を越えて特別掲載を希望する投稿については全額著者負担とする。
12. 予報：独創的な研究業績で、そのプライオリティを確保するために速かに公表する必要がある場合は予報欄に投稿することができる。図表などを含めて2,000字以内（1印刷ページ）とし、費用は著者負担とする。
13. レクチャーおよびトピックス：最近学会などで話題になったものやエッセンスで気楽に会員が読めるもの。レクチャーは編集委員会が依頼したもので字数制限はなく、トピックスについては2,000字以内にまとめること。
14. 集会記録：総会、例会、談話会などにおける講演、発表の抄録などを掲載する。
15. 原稿とは別に投稿票とチェック票を添えること。投稿票に必要事項を記入し、チェック票は著者自ら各項目にチェックを記入して原稿の正確性を期すこと。チェック項目不備の原稿は受け付けない。投稿票とチェック票は事務局に請求するこ

と。

16. 原稿は次の要領に従って書くこと。

1) 冒頭を表紙とし、次の順序で各項を記載すること。

和文標題・著者名、英文標題・著者名(10名以内)、ランニングタイトル(30字以内)、和文所属機関名・所属機関の主任者名、英文所属機関名・所属機関主任者名、和文所属機関住所・英文所属機関住所の順に記載する。共著者が別の機関(講座など)に所属するときは、機関ごとに項目を分けて書き、さらにその下に所属機関の住所を和英両文で記す。所属機関名は必ず公式の名称を用いること。

そのほか特に脚注が必要なきも下の方に記入する。英文もこれに準ずる。学会で発表したことについては本文末尾に記入すること。

2) 和文はひらがなまじりで新かなづかいの口語文章体(…である)とし、専門用語以外の日用語は当用漢字で新かなづかいを用いること。学術用語は日本歯科医学会編の日本歯科医学会学術用語集あるいは日本医学会編の医学用語辞典(和英、英和)に準ずること。また、身体各部を表す用語は日本解剖学用語(日本解剖学会編、最新版)に準ずること。薬品名などは商品名ではなく一般名を用い、略語は初出時に何の略かを明記しておくこと。

3) 仮名づかい、送り仮名については、岩波「現代用字辞典」を参照のこと。

次のような代名詞、接続詞、副詞、助動詞などはひらがなで書くこと。

或いは、如何に、於いて、に拘らず、且つ、する事、する毎に、然し、即ち、全て、総て、其等、但し、の為に、就いては、出来る、～する時、と共に、夫々、何故、～等、殆ど

4) 数量を示す場合はアラビア数字を用い(150 mg, 1部)、不確定数詞には漢字を用いる(二三の、二三十人、数百メートル、一部分)。

5) 単位はSI基本単位に準じ、記号のあとにピリオドは打たない。km, cm, mm, μ m, nm, pm; l, dl, ml, μ l; kg, g, μ g, pg, …; % (重量百分率), Vol%, mM, N/10, ppm, ppb, mEq/l; hr, min, sec; 37°C, Gy, Bq…。

6) 英語の場合は固有名詞と文頭を除き頭文字は小文字で始める。動植物や微生物の学名やラテン語にはアンダーラインを引くこと(イタリックになる)。外国人名は原則として欧文を用いる。

7) 緒言、材料/対象・方法、結果、考察、結語、謝辞、引用文献などの見出しはゴシック体とし、それぞれ内容の区分記号は1.2.3…、1)2)3)…、(1)(2)(3)…、①②③…、a.b.c…、a)b)c)…、(a)(b)(c)…の順とする。

8) 図表の挿入箇所は本文に図3、表5のように示すほかに、右余白に朱書する。写真も図の中に入れ、写真(Plate)という項は作らない。

9) 図表は本文の最後に別の紙に書いてまとめ、写真は氏名、付図番号、天地および縮小率の指示などを記入しておく。倍率は最終印刷時の拡大率を示すが、希望通りの倍率にならないこともある。写真に記入するときはタイプトーンなどのようなものを用いること。もし特に専門家に記入を希望するときにはトレーシングペーパーを貼付してその上に書き込み、写真には記入しないこと。

写真の印刷時の大きさは、1/2段に入れるときは横6.8cm、1段抜きで入れるときは横14cmが最大幅になる。大き目の写真を縮小した方が美しく仕上がる。縮小率が同じ写真だけを1ページにまとめた方が経済的である。

10) 文献は、引用箇所の右肩に引用順に番号をつけ(…¹⁾、…³⁻⁵⁾)、本文末に引用順にまとめること。

本文中の引用は、著者が3名以上のときは1名だけの姓と…ら、または…、et al. とする。文献欄には共著者全員の名前を書く。

(1) 雑誌; 略名は医学中央雑誌収載誌目録(医学中央雑誌刊行会 最新版)、List of Journals Indexed in Index Medicus (National Institutes of Health National Library of Medicine)を参照のこと。

番号) 著者名: 標題、掲載誌名、巻: 引用ページ(最初のページ-最後のページ)、発行年。と記載する。

例: 盛岡岩雄: 舌癌の転移に関する研究。岩医大歯誌, 20: 270-283, 1995。

Maiden, M. F. J., Tanner, A., and Macuch, P. G.: Rapid characterization of periodontal bacterial isolates by using fluorogenic substrate tests. J. Clin. Microbiol., 32: 376-384, 1996。

欧文雑誌名は最後の語を省略しないときはピリオドをつけない(Dental Echo)。アンダーラインを引いておく(イタリックになる)。

未発表の論文は本文中に記載するにとどめ、文献欄には入れない。現在、印刷中のものは入れてよい。投稿中でまだ採否不明のものは未発表のもの

のと同じ。

(2) 単行本；番号) 著者名：書名、版数、書店名、発行地、引用ページ（最初のページ-最後のページ）、発行年、または、番号) 著者名：標題、編者名：書名、版数、書店名、発行地、引用ページ（最初のページ-最後のページ）、発行年、とする。

例：Koneman, E. W., Allen, S. D., Janda, W. M., Schreckenberger, P. C., and Winn, W. C. Jr.: Color Atlas and Textbook of Diagnostic Microbiology. 4th ed., J. B. Lippincott Co., Philadelphia, pp431-466, 1992.

江藤一洋：発生・成長・老化、坂田三弥、中村嘉男 編集：基礎歯科生理学、第2版、医歯薬出版、東京、258-266 ページ、1994.

翻訳書の例：Carranza, F. A. Jr., ed.; 原 耕二ほか訳、グリックマン臨床歯周病学、第6版、西村書店、新潟、212-236 ページ、1984；Glickman's Clinical Periodontology ; 6th ed., W. B. Saunders Co., Philadelphia, 1954.

(3) ウェブサイト中の記事：著者名：“ウェブページの題名。”ウェブサイトの名称、更新日付、入手先、(入手日付)。

例：中央教育審議会。“教育振興基本計画について-「基本立国」の実現に向けて- (答申).”文部科学省、2008-04-18. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo0/toushin/08042205.htm, (参照 2008-08-13).

- 11) 原稿を送るときは、投稿票、チェック票、標題ページ、英文抄録、和文抄録、本文、文献、図表の説明文、図・表の順に封筒に入れること。英文の場合もこれに準ずる。
17. 著者校正の場合は誤植などの訂正のみにとどめ、加筆修正は原則として認めない。
18. 本誌に掲載された論文の著作権（著作財産権、Copyright）は本学会に帰属する。
19. 原稿の送付先

〒020-8505 岩手県盛岡市中央通1丁目3-27 岩手医科大学歯学部内 岩手医科大学歯学雑誌編集委員会に「原稿在中」と朱書して書留で送付すること。

二次出版 (secondary publication) について

1. 岩手医科大学歯学会雑誌編集委員会では、以下の規定を満たす論文について二次出版のための投稿を認める。
 - 1) 著者は、岩手医科大学歯学会会員に限る。
 - 2) 論文の内容は歯科医学に関するものとし、一次出版物に掲載された著者ならびに論文内容、写真、図表の加筆、修正、変更は行わず、そのまま日本語表記とすること。
 - 3) 一次出版論文は国外の学術雑誌に掲載されたものに限る。国内の学術雑誌に掲載された外国語論文は認めない。
 - 4) 一次出版側の編集責任者の許諾文書とそのコピーを添付すること。許諾文書は著者が取得するものとする。
 - 5) 一次出版論文の別刷もしくはコピーを2部添付すること。
 - 6) 一次出版論文の著者全員の捺印を記載した「二次出版論文投稿承諾書」とそのコピー1部を添付すること。
 - 7) 二次出版論文の投稿は、一次出版物の発行後とする。
 - 8) 論文の構成ならびに体裁は、本誌投稿規定に準ずること。
2. 冒頭を表紙とし、次の順序で各項を記載すること。

和文標題・著者名、英文標題・著者名 (10名以内)、ランニングタイトル (30字以内)、和文所属機関名・所属機関の主任者名、英文所属機関名・所属機関主任者名、和文所属機関住所・英文所属機関住所、二次出版であることを明記した脚注、の順に記載する。この脚注には一次出版の論文の著者、タイトル、掲載雑誌名、巻数、号数、ページ、発行年を明記する。
3. 論文の査読は本誌編集委員会で行うが、その採否および編集は同委員会に一任する。
4. 本誌に掲載された二次出版論文の著作権（著作財産権、Copyright）は本学会に帰属する。

(備考)

本誌に掲載された論文を基に、二次出版論文として国際学術雑誌等への投稿を希望する場合は、必ず本学会事務局に連絡し、編集委員会の許可を得ること。